

優秀賞

しよらいのゆめ

川田谷小学校四年 中野 天寧

わたしのしよらいのゆめは助産師です。わたしが、助産師になりたいと思ったきっかけは、ようちえんのころ、産科や新生児科などの先生たちの日じようをえがいたドラマを見たからです。

助産師になりたいと思ってからは、きっかけのドラマを見ながら、医りよう用語などをちよこちよこ覚えてみたり、助産師の大きなみ力を見つけてみたりしました。わたしが思った助産師の大きなみ力は、命のたんじように立ち会えることはもちろん、生まれたばかりの赤ちゃんにふれられることや、赤ちゃんのお母さんやお父さんに「おめでとう！」と言ってあげられることです。今では、助産師の一日について、わかりやすくなっている本

を使って自学などで勉強しています。

二年生のとき、友達のお母さんの妊婦けんしんに連れていってもらったことがあります。そのとき、わたしは助産師さんに、

「助産師でいて、とくにうれしいと思う場面はありますか。」

と聞きました。すると、助産師さんは、「赤ちゃんがぶじに生まれるまでは、とてもドキドキするけど、赤ちゃんがぶじに生まれるときは、ホッとするし、とてもうれしいです。」

とえがおで話してくれました。赤ちゃんが、ぶじ生まれるまではドキドキすると言っていたけど、そんな時でもやさしくわらっている助産師さんは、すごいなと思いました。

そして、友達のお母さんのおなかの中にいた赤ちゃんはぶじ生まれ、だっこさせてもらえることになりました。赤ちゃんは、とても軽くて、温かくて、やさしいミルクのおいがしました。なによりも、赤ちゃんの手足がとても小さくて、かわいいなと思ったのを覚えていきます。助産師さんは、こんなにも小さ

な命を大事に大事にとり上げます。それは、大変だけど、とても楽しい仕事だと、あらためて感じました。

わたしは、あかるくて、いつもやさしくほえんでいる、妊婦さんによりそえる助産師さんになりたいです。